

日本語ボランティア養成講座を開催しました

5月12日から6月19日の6週間、鈴鹿国際大学を会場に日本語ボランティア養成講座を行い、12名の方が受講されました。

講師は、鈴国大の舟橋先生、赤塚先生、棧敷先生の3名の先生にお願いし、「日本語を教えるために知っておいたほうが良い事」を中心に教えていただきました。また、鈴鹿市から市内における在住外国人の状況と、市の取り組みも話していただき、SIFAからは「ボランティアができること」についてお話ししました。



講座では、初めて教室に来た人のレベルをチェックするための方法として、とよた日本語システムを学びました。とよた日本語システムは名古屋大学と豊田市が共同開発し、主に初級の学習者を対象に日本語力を測るもので、初めて教室に来た方のレベルチェックとして、とても役立ちそうです。また、日本語教室で広く使われている教科書の分析も行いました。ここまでは、活動の上で基礎となり、学習者と向き合うための

準備に当たる部分です。

次に、私たちの使っている日本語は、果たして外国人にとって分かりやすいのか考えました。一つの言葉でも2通り以上の意味がある言葉は案外たくさんあり、伝えたいことがうまく伝わらないケースがあることを学びました。相手に伝える(理解してもらう)には、いくつかのテクニックがあるようです。婉曲表現は、日本人同士で話をするときは、相手の気持ちを思いやっても良いものですが、外国人には理解しにくい表現です。また、1つの事柄も視点を変えることで表現が変わるので、注意が必要とのことでした。



次の時間は、日本語で日本語を学習する外国人の気持ちを体験するために、スリランカからの留学生ガヤトゥリさんにシンハラ語でシンハラ語を教えていただきました。文字も言葉も全然わからない状況で授業を受けるということが、どれだけ大変か分かっていただけだと思います。受講者からも、とても良い体験になったと言っていました。

後半の模擬授業を準備するに当たり、再度日本語の教科書を分析しました。スタッフは、教科書の中身のある程度分か

っていないと、学習者の実生活につながる学習になりません。そのため、先生から各課で学習することをふまえながら、どのように活動につなげているのか教えていただきました。今までに学習したことはもちろんですが、学習者が十分に理解している様なら、一つか二つは未習の文型を活動の中に入れてもいいそうです。4つのグループに分かれてみんなの日本語のどの課を担当するのかを決め、模擬授業の準備をしました。





模擬授業は、全員が1人5分の持ち時間で行い、学習者役は、ほかのグループの方がしました。工夫を凝らした話題やストーリー展開をされていた方もみえましたし、オリジナルの絵教材を持って来られた方もいらっしゃいました。両方が日本人だと、話が思わぬ方向に行ってしまうことがありましたが、活動につながるとても良い経験になったのではないかと思います。先生からは、ボランティア-学習者だけのやり取りだけでなく、学習者同士での会話、質問からさらに突っ込んで話を聞くためには、相槌をうって自然な会話

を作っていくなど、たくさんアドバイスをいただきました。

最後の時間は、市内の日本語教室(鈴鹿日本語会 AIUEO・桜島日本語教室・牧田いろは教室)から担当の方に来ていただき、それぞれの教室の特徴や活動をしていて感じるやりがいを話していただきました。鈴鹿日本語会 AIUEO は、スタッフと、学習者が一緒に懇親会をするなど両者の距離がとても近い教室です。桜島日本語教室は、学習者が疲れていて勉強したくないときは、お話だけにするなど、学習者のリズムで教えています。牧田いろは教室は新しい教室で、みんなで決めていく雰囲気を持った教室です。家から近い、参加しやすい時間、教室の雰囲気などを考慮して活動場所を決めていただければと思います。



最後に、80%以上出席された方に、SIFA の神常務理事から修了証をお渡ししました。受講された方のご活躍を期待いたします。

また、このレポートを読んで、日本語ボランティアに興味をお持ちの方は、協会までご連絡ください。各教室におつなぎしたり、研修についてご案内させていただきます。